



mizu no oto 大分 水の音

vol. 26 2018年1月 発行

発行元：株式会社エステーエスプロジェクト大分支局
〒870-0952 大分県大分市下郡北3丁目26-36
TEL 097-574-5371 FAX 097-574-5372

“今そこにある危機！” 種子法廃止のその後

機関紙「水の音」vol.22号で特集を組んだ「種子法廃止」、その後の影響はどうなっているのか？日本の食の安全保障を左右すると言われながら、メディアでは扱われない情報の続編です。

◆日本の政策を決めるもの？

「種子を制する者は、食糧を制する。食料を制する者は世界を制する」これは、アグリバイオビジネスを世界中で展開する多国籍企業の戦略ですが、ここ日本でも、着々と進んでいるようです。

種子法廃止の前段階、TPP協定の平行会議において「日本政府は、米国投資家の要望を聞いて各省庁に検討させ、必要なものは規制改革会議に付託し、同規制改革会議の提言に従う」という内容の日米交換文書が取り交されています。まさにこれは、多国籍企業の要望を日本政府が積極的に実行していくことの取り決めであり、その重要な方向性を決めるのが、現在では「規制改革推進会議」ということを表しています。

◆もう一つの法律

この動きの中、事実上、遺伝子組み換え（以下GM）の商業栽培を容認することとなった「種子法廃止」に呼応するかたちで可決されたのが、「農業競争力強化支援法」という法律です。一見、法案名を見ると、日本の農業をよりよくするための法律のように思われますが、中身は大きく違っています。一部を要約すると、国や自治体が、これまで長年にわたって知見してきた種子の情報を積極的に民間企業に流すことを奨励しています。今後、民間企業からの要望があれば、自治体は、種子の情報を積極的に開示しなければなりません。

◆日本に迫る多国籍企業モンサント社の戦略！

GM農業の日本への導入は、止めることができない状況です。日本の住友化学は、アグリバイオ企業の巨人、モンサント社が、世界で展開する農業商法を取り入れています。契約農家は、種籾、肥料、農薬などセットで購入し、すべての圃場での使用が義務付けられ、収穫したお米は、一粒たりとも、他へ販売してはならず、予定収穫量も決められています。それらの契約に違反すると、賠償問題へと発展するようです。また、自然災害で予定収穫量に達しなかった場合は、農家自身でそれを証明しなければなりません。今後、GM作物も、この商法が導入されることが予想されます。

◆日本の種子が消滅？

他にも、法律改正により問題は山積みです。その改正後、日本では、GM作物は、認可を受けた作物との交配に限り、実質的に容認されています。しかし、自然の生態系や、他の作物への交雑のリスクは、どうするのか、今後、日本の稲作や植物の生態系が、いつの間にかGM作物に汚染されるという、大変な状況が問題視されています。2001年、メキシコでは、いつの間にかアメリカのGMトウモロコシが、メキシコに紛れ込み、遺伝子汚染されているという問題が発生しています。これにより、数千年続いてきた世界で最も貴重なメキシコの原種トウモロコシが、危機にさらされています。



◆後戻りができないGM農業

同じく2001年、綿花の世界的生産地であるインドでは、綿花栽培にGM農法を取り入れた結果、2002年から2010年までに、17万人の自殺者が出ていて社会問題となっています。GM農法を取り入れて数年は、収穫量が増加しましたが、年を重ねることに耐性害虫が発生し、生産量が減少。そのたびに農薬などの資材購入が増え、農家を圧迫。多額の借金を抱えることとなりました。また、大量の農薬を使用するため、栽培に従事している農民の健康被害も大きな問題となっています。しかも、従来型の農業に切り替えようにも、すでにインドには、その仕組みがなくなっていました。この状況下で、数年の間に、大量の綿花農家が自殺してしまったのです。

◆繰り返される終わりなきバトル！

また、GM農法下での耐性雑草、害虫の発生は世界中で深刻な問題です。長年使用していると、薬の効果がなく、農業ができなくなってきたというのです。大規模農家では、見渡す限りの地平線まで、農地一面に雑草がびっしりとはびこっていて、その処理費用は莫大になります。この状況はまるで、抗生物質と耐性菌の終わりなきバトルの再現のようでもあります。（裏面へ）

◆**周回遅れの政策!**

モンサント社が展開するGM作物の普及は、安全性への警戒感や数々の問題点などから、世界中で反対運動が起き、訴訟問題となつていす。また、ヨーロッパではGM作物、食品が厳しく規制されるなど、いまや、GM戦略は転換期にあるようです。

STS科学に照らし合わせても、今行われているGM技術は、宇宙の摂理により自然界で行われてきた、遺伝子の進化からは、かけ離れていて、地球の生態系にとって大きな抵抗現象になると考えられます。しかし、日本では、これからGM作物を取り入れる準備をしています。すでに規制の網を潜り、GM作物が加工食品の中に大量に使用されている事実もあるのです。これらは、生命の尊厳に添わない、世界の情勢からも、周回遅れの政策ではないでしょうか。

◆**地球の種は誰のもの?**

◆**周回遅れの政策!**
モンサント社が展開するGM作物の普及は、安全性への警戒感や数々の問題点などから、世界中で反対運動が起き、訴訟問題となつていす。また、ヨーロッパではGM作物、食品が厳しく規制されるなど、いまや、GM戦略は転換期にあるようです。

◆**地球の種は誰のもの?**
そして今後、モンサント社は、世界中で行ってきたように、自治体から



◆**まず、日本人から!**
これまでに、「トウモロコシや大豆は家畜の食べ物。小麦は人間が食べるもの」という理由で、頑なにGM小麦に許可を与えてこなかった米国も、いよいよGM小麦解禁の流れが出てきました。

◆**まず、日本人から!**
これまでに、「トウモロコシや大豆は家畜の食べ物。小麦は人間が食べるもの」という理由で、頑なにGM小麦に許可を与えてこなかった米国も、いよいよGM小麦解禁の流れが出てきました。

◆**日本国 主権の問題!**

◆**日本国 主権の問題!**
今回は、種子法廃止後、日本の食の安全保障に繋がる農業の問題を述べてきました。これは、日本国の主権の問題でもあり、最重要課題ですが、世の中にはあまり知られていません。

◆**日本国 主権の問題!**
今回は、種子法廃止後、日本の食の安全保障に繋がる農業の問題を述べてきました。これは、日本国の主権の問題でもあり、最重要課題ですが、世の中にはあまり知られていません。

◆**水の音 報告!**



＜井下龍一郎さんとご家族＞

◆**健康な生命を次世代へ**

◆**健康な生命を次世代へ**
長年のSTS会員で、STS製品は、ほとんど使用してきた井下道則さん、幸子さんご夫妻は、健康な生命の情報を次世代へ繋ごうと、頑張っています。

◆**悩まされて**

◆**悩まされて**
悩まされてきている原因不明の咳が出ないのです。両親からは、NEWクリスタルセラやハーモニーウォーター(以下HW)のおかげではといわれたものの、半信半疑でした。

◆**悩まされて**
悩まされてきている原因不明の咳が出ないのです。両親からは、NEWクリスタルセラやハーモニーウォーター(以下HW)のおかげではといわれたものの、半信半疑でした。

◆**の参加にも**

◆**の参加にも**
の参加にもかかわらず、半田代表の話がとても分かりやすく、凄く興味深い話だったという、感想をもらったようです。

◆**の参加にも**
の参加にもかかわらず、半田代表の話がとても分かりやすく、凄く興味深い話だったという、感想をもらったようです。

<p>【大分支部1月の行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆1月11日(木) 学習会 14:00~ ◆1月19日(金) 学習会 14:00~ ◆1月28日(日) 休日営業 	<p>《1月のセミナー・交流会》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆1月14日(日) 東京セミナー グランパークプラザ4F(401) ◆1月21日(日) 九州支局移転交流会 ※詳細は支局まで 	<p>【編集後記】</p> <p>極東有事が大きく動いた2017年、他人事だった世界情勢の不安は、身近なものとなってきました。STSの技術が世界へ広まれば、国家間の多くのトラブルが解決します。本当に急がねばなりません。</p>
---	--	---